

五十年会の歩み

幹事：下間頼一、小澤和雄（S25 卒）

京都大学工学部機械工学科へ入学した昭和 22 年（1947 年）は、丁度京都大学創立 50 周年の年であった。又卒業した昭和 25 年は、西暦 1950 年に当たり、数字的に非常に印象の良い年であった。上記の 2 つの数字 50 の縁で、我々学年同窓会の名称を五十年会と呼称することになった。以後五十年会は元号が変わる令和元年まで 69 年間継続してきた。が、メンバー減などで限界に至り、残念ながら今年で五十年会を解散することになった。以降その努力の足跡を述べる。

1. 大学在学時代

京都大学へ入学した昭和 22 年は、終戦後わずか 2 年、世情極めて厳しい状況であった。その悪い環境のなかでも、著名な権威ある教授に親切に又厳しくご指導戴いた。西原、菅原、藤本、佐々木、長尾、河本、奥島の各教授始め、助教授の方々に心から感謝申し上げる。特に西原教授の威厳に圧倒され、重々しく語られる講義には畏敬の念を感じ、その時に同輩の森川君が書いた講義ノートの一部が今でも五十年会の宝として保存している。その他、私的な面でも各教授には種々お世話戴いた。当時は経済環境が極めて悪く就職難の時代であったが、真剣に対応して戴いたことなど同輩の語り草になっている。反面生活環境は極めて厳しく、私生活では夫々苦労が多かったが、お互いが情報を交換して協力しながら助け合った。宝くじを販売するアルバイトなど情報を期友に流して共に生活費を稼いだり、お互いが助け合って住みよい住所を探したりしながら、厳しい生活を乗り越えてきた。一方、製図室で卓球を楽しみ、休みには琵琶湖へ行ったりして期友と仲間意識を盛り上げた。卒業論文では苦労したが、昭和 25 年 3 月に 40 名が無事卒業した。卒業を記念してお世話になった各教授のお写真と我々卒業生の写真を大事に保管している。



1950 年 卒業記念写真 / ガラス乾板白黒写真

2. 大学卒業～卒業 35 周年（昭和 25 年～昭和 60 年）

卒業後、メンバーの森川君が五十年会幹事として活躍してくれた。彼は五十年会を永續すべく卒業の翌年正月に初めての新年同窓会を企画して、会場は大阪市南区戎橋の『北極星』にて開催、幹事の努力でメンバー 15 名が出席し、大いに盛り上がった。卒業後 2 年余り経

った昭和 27 年末に、幹事が会員の動向を調査し、「五十年会会報創刊号」を B4 版 4 頁のガリ版刷りにて自身が製作し発行してくれた。その努力にメンバーは大感激、幹事の気迫に圧倒され五十年会を大いに盛り上げる要因となった。又、その創刊号にはメンバー全員の近況を記載すべく、連絡のないメンバーには直接電話で聞き取り、又は友達などから情報を聞き取るなどして全員の近況を記載すべく努力してくれた。その時の幹事の努力が五十年会を永続できた第一の要因と考えている。



その後、残念ながら卒業 35 周年までの記録があまり残されていない。記録として残っているのは卒業 35 周年（昭和 55 年）1 月に大阪の八幸にて五十年会を開催した時である。然し或期友の話では、卒業後殆ど毎年五十年会を開催し、偶に関西近郊の山の散策などおこなっていたようだが記録に無いので省略する。八幸では 14 名が出席し大いに話が弾んだ。その時に五十年会の開催を年に 2 回実施することを決めた。それ以後は同年 9 月、昭和 56 年に 1 月と 8 月、昭和 57 年に 1 月と 8 月、昭和 58 年に 1 月と 7 月、昭和 60 年に 1 月と何れも八幸にて五十年会を開催した。1985 年 10 月には卒業 35 周年に当たり京都香雲にて 20 名が出席した。久しぶりの宴会で全員が大いに盛り上がり、五十年会の会合を年に 2 回確実に実行すべく幹事 2 名を選定し今後の運営を行うことにした。

3. 卒業 36 周年～卒業 45 周年（昭和 61 年～平成 7 年）

卒業 36 周年～40 周年の期間は、幹事の努力により、確実に年 2 回大阪の八幸にて五十年会を開催、出席も 8～14 名と安定してきた。卒業 40 周年記念には京都菊水にて 16 名が出席、会は盛り上がり全員が卒業 40 周年メッセージを書き幹事が纏めて全員に配布することになった。そして次の 5 年間も新しい幹事を選定して継続することを誓った。

卒業 40 周年～45 周年の期間は、前期同様、全員の協力により年 2 回大阪の八幸にて五十年会を開催、出席は前期を上回り 9～15 名となった。卒業 45 周年記念には、京都のホテルフジタ京都にて 12 名が出席、大いに盛り上がった、ただ、幹事の仕事が厳しいとのことで、来期より幹事を 2 年交代として、記録をノートに残すことにした。

卒業後、卒業 45 周年までの期間では、残された記録が断片的で纏まっていない点が多く、多少の推測が入っているので容赦願いたい。また、卒業からこの期間までに、会員は 8 名が逝去し会員数は 32 名となった。来年度から五十年会名簿を作成することにし、会員に配布することにした。

4. 卒業 46 周年～卒業 55 周年（平成 8 年～平成 17 年）

五十年会の幹事の役割及び例会の定型化を決め会が安定して運営されてきた。五十年会は年に 2 回開催。幹事は例会 1 月前に全会員に例会の案内便（個人の出欠、現況を記入する葉書『開催日の 10 日前に投函依頼』を同封）を送付、例会日の 10 日前に返信のないメンバーに電話連絡して現況を確認してメモにし、送付された期友の葉書と一緒に全員の現況を明確にするコピーを作成して全員に配布、例会の世話、会計、写真、例会後の例会報告便（一緒に写真同封）、京機会事務局へ年に 1 回現状報告と写真を送付など行うことになっている。

又、例会は、11時に集合し12時までの1時間は個人が得意のテーマを選んで講演する。12時から14時までには食事をとりながら懇談し例会を終了することになっている。最後に幹事は、例会の出席者、会計などをノートに記録することにして運営が確実に行われるようにした。

上記の運営方法が要因か分からないがこの期になってからは出席者が増加しイベント以外の時でも11～16名が参加するようになった。五十年会にとって貴重な努力の結果といえる。更に五十年会の記録を残すべく五十年会の開催番号をつけるようにした。45周年の会合を45回目の京機会として、その番号を踏襲した。実際には35周年までにもっと多くの会合があったはずだ。

50回目の五十年会の時に、それまで会員が9名逝去しているので『亡き友を偲ぶ会』を開催しようとの案が出された。全員の賛同を得て、52回目の五十年会の時に開催した。期友清水君が奈良法真寺の住職をしていたので彼に依頼して亡き友9名の法要を行った。法要は、奈良法真寺で16名が参加して行い、この法要のために清水師が経文を判り易いひら仮名と漢字まじりの文にしてくれ、全員が30分かけてお唱えした。そして全員が焼香をして亡き期友の冥福を祈った。法要の後、近くの禅寺慈光院を拝観、精進料理を戴いた。食事の席で亡き期友9名を偲ぶ話や卒業頃の世相について大いに話が盛り上がった。卒業後の大きいイベントであった。

卒業五十周年のときには、京都大学を訪問することになり、18名が参加した。我々が卒業した時の機械教室の姿は無く、新しい建物にて矢部教授が詳しく現状について説明頂き、会員一同感謝しながら聞き入った。其の後、近くのストラン「しらん」にて宴会、夫々昔の思い出話に花が咲いた。

卒業46周年から55周年の10年間に期友4名が鬼籍に入り会員は28名となったが、順調に五十年会は運営されてきた。



平成17年10月24日開催 五十年会 (参加者15名・大阪倶楽部)

5. 卒業56周年以降(平成18年以降)

卒業後56周年から鬼籍に入る期友が増えてきた。同年から4年の間に5名逝去され会員が24名となった。会員が高齢になり、五十年会の運営についても変更すべきとの声で全員にアンケートを配布、その結果を踏まえて五十年会運営を下記のように変更した。先ず会員

を非参加会員と参加会員に分ける。健康など考慮して参加が無理な会員を非参加会員とする。非参加会員は、幹事からの連絡により現況を報告し、幹事から全員の現況のコピーや五十年会例会の報告を受け取る。ただ、その通信費のみ支払う。参加会員については五十年会例会の開催（平成20年までに72回となった）を年2回から1回に、開催場所を大阪倶楽部とする。例会の話題は特定せず、出席者の情報、京機会の情報、その他興味ある話など気楽に話し合うことにした。幹事は今迄通り2名とし、2年交替で行った。

卒業60周年に至り、『全会員から思い出文などを募集し、それを纏めて文集にする』ことを決め、新旧幹事4名が協同して作成にあたった。前文にも書いた昭和27年に森川君が苦勞して作成した五十年会会報や卒業会での恩師や会員の卒業記念写真、卒業40周年メッセージ、森川君が書いた西原教授の講義ノート、会員名簿、五十年会記録などと共に全員の卒業60周年文集を1冊の『卒業60年を迎えて五十年会記念文集』として発行した。五十年会全員に配布すると共に森川君から京機会事務局にも贈呈した。

五十年会の運営については、問題がなかったが会員の逝去により会員数が急激に減少した。卒業後60周年（平成22年）に会員数22名、平成25年に会員数16名、平成26年に12名、平成27年に9名、平成28年に6名、平成29年に5名、平成30年に4名と会員が急激に減少した。又五十年会例会出席者も平成25年には5名となった。従って大阪倶楽部での五十年会の開催は無理と考え、平成26年から幹事下間宅で開催することに決定した。以降平成26年から令和元年まで6回下間邸で開催した。が出席者は4名から2名に、また会員数も4名（内1名は出席不能、1名は不明）となり存続不可能と考え解散することにした。

京機会同窓会並びに事務局には種々お世話になった。改めて御礼申し上げます。



下間 頼一氏 (故) 森川 龍一氏 小澤 和雄氏
平成27年5月8日開催 五十年会 (参加者15名・下間邸)